

社会に開かれた教育課程を目指して

12月に入り、ぐっと寒さが増してまいりました。体調を崩す児童も少しずつ見られるようになってきましたので、換気や手洗い・うがいを徹底しながら、元気にこの冬を乗り切っていきたいと思います。

さて、先週は学校全体で多くの貴重な学びがありました。

火曜日には、1・2年生が「わくわくフェスティバル」を開催し、九町保育所のみなさんを温かくお迎えしました。

水曜日には、高学年の家庭科の学習で、地域ボランティアの方々にミシンや裁縫の指導をしていただきました。

木曜日には、3～6年生が郵便局の方々から手紙の書き方を教わりました。また、この日は、愛媛県立美術館の鈴木さんにお越しいただき、4回目となる対話型鑑賞の授業も行いました。

そして金曜日には、3・4年生が青森県鰺ヶ沢町の西海小学校とオンラインでつながり、食農教育の学習を深めました。

このように、多くの皆様の御協力をいただきながら、子供たちは教科書だけでは得られない体験的な学びを積み重ねています。

近年、「社会に開かれた教育課程」という言葉が教育界でも注目されています。これは、子供たちが学校の枠を超え、社会と関わりながら学ぶことで、未来を生き抜く力やより良い社会をつくる力を育むという理念です。そして、この実現に欠かせないのが、学校と地域が力を合わせることです。子供たちが社会で主体的に学び、成長していくためには、地域の皆様のお力添えが不可欠です。

今回の多彩な活動も、地域の方々の温かな支えがあってこそ成り立っているものです。御協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

